

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602728		
法人名	有限会社 ケイテック		
事業所名	グループホーム「仲間館・絆」	ユニット名	
所在地	福岡県久留米市城島町内野322番地1		
自己評価作成日	平成23年12月5日		

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年12月27日	評価結果確定日	平成24年4月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の中で生活リハビリなど利用者自身が活発に生活を送って頂けるようなサービスの提供を行っています。
 毎年恒例の宿泊旅行を計画(去年は中止)し、普段湯船に浸かれない方でも温泉を楽しめるよう支援したり、普段行けない所へ外出し刺激を与え、多くの気づきを見出し毎日のケアにいかしている。
 食事面では、栄養が偏らないようにし、季節の野菜を多く取り入れバランスのとれた食事を心がけている。
 健康な方が普通に暮らすように許す限り、自由に生き生きとした、その人らしい生活が送れるよう、心に寄り添えるような支援を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「仲間館・絆」では、毎年のように、2泊、3泊の旅行が計画され、前回は殆んどの入居者の方々と職員、近隣のボランティアの方々の参加により、3泊4日の沖縄旅行が実現している。この取り組みは大きな特徴でもあり、当事業所の行動力と熱意がうかがえる。
 隣接するデイサービス事業所に加え、23年度は近隣に住宅型有料老人ホーム「仲間館・ぽっかぽか」や訪問介護事業所が新規開設され、質の向上に向けた新たな連携や、日常的な交流の機会も始まっている。今後も、地域資源や行政との連携を更に深めながら、地域拠点としての活動展開が大いに期待される事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が常に意識して理念の実践に取り組めるように、毎朝の朝礼での唱和を行い定例ミーティングや会議の時に再確認を行っている	朝礼時の唱和や、運営推進会議の中でも確認を行う等、理念の共有と浸透に向けて働きかけを行っている。職員全体会議の議事録からは、質の向上に向けた積極的な姿勢が伝わり、理念の実践に向けた取り組みがうかがえる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所の方達に立ち寄って頂ける様に「お茶でもいかがですか？お気軽にお立ち寄りください」という看板を立てている。 自治会に加入し、行事等にも出来る限り参加し地域のお祭りや草むしり等に利用者と共に参加するようにしてある。	自治会に加入し、町内清掃活動や地域行事に参加している。昨年度は、近隣に同法人の高齢者施設が開設されたこともあり、新たな交流も始まっている。近隣や民生委員福祉部会の方々がボランティアとして訪れている。玄関先には、気軽な立ち寄り呼び掛ける看板が掛けられている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族や訪問者に見やすいようにわかりやすく指示している。運営推進会議などで理念が浸透するように取り組んでいる		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の状況や現状を報告し、委員の方からの意見や助言をいただいている。多様な意見をサービスの向上につながるよう取り組んでいる。	運営推進会議は、年間計画の中で定期開催され、入居者、複数の家族、区長、民生委員、市議会議員等のメンバー構成に加え、職員が持ち回りで参加している。状況報告や意見交換を行い、運営への反映に努めている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営や支援について、相談やわからないことがあれば市役所の担当職員に相談するようにしている。	困難事例への対応や、各種手続き、不明な点の問い合わせ等にて、介護保険担当者やケースワーカーとの連携や問い合わせを行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議、カンファレンスに於いて、職員全員が身体拘束の行為を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入居時に、身体拘束を行わないケアに取り組むとの方針を家族にも伝え、共有認識を育てている。法人としての学習会の中で、禁止の対象となる具体的な行為や身体拘束による弊害、リスクマネジメント等を取り上げ、職員全体の意識を高めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修資料などを参考にして会議の際などに学ぶ機会を持っている。		

福岡県 グループホーム「仲間館・絆」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や一部職員は理解しているが全職員が理解しているわけではない。	現在、日常生活自立支援事業を活用している方もおり、資料の整備や勉強会の中で学ぶ機会を持つ等、制度への理解を深める取り組みを行っている。	継続して学ぶ機会を確保しながら、入居時や運営推進会議等を通じて、家族や地域への説明を行う等、情報発信にも期待します。
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限り職員2名で対応し、説明の漏れがないように努めている。 利用者やご家族の質問にもわかりやすく伝えるように説明している。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が一番信頼、話しやすい職員に意見、不満など言えることが多いので管理者に報告後、会議などで話し合い意見交換している。 毎月利用者の暮らしぶり、日常の生活の様子を担当職員が手書きの報告を送付している。 家族が来訪時には普段の様子や状況、経過を伝える。	利用者アンケートを実施し、意見や要望の収集を行いながら、日常のケアに反映するよう努めている。運営推進会議への家族の参加も得ており、意見や要望を収集する機会としても捉えている。各担当者により、利用状況報告書が毎月作成され、家族との情報共有に努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議を行い意見や提案を話し合うような時間を設け運営に反映させる。	ホームとしてのミーティングや全体会議の際には、参加者全員が発言する機会を設け、業務改善等について職員の主体的なかかわりを求めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自主勉強をし、月末までにレポートを提出すると学習手当がつくようにしている。個々の努力や実績に応じて、面接をし昇給制度にしている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、年齢や性別を問わないようにしている。 個別に質問や相談、悩みに応じて働きやすい職場に取り組んでいる。	法人としての採用となり、年齢や性別による排除は行っていない。実際に10代から70歳代まで幅広い年齢層の職員が勤務している。自主勉強や外部研修参加時のレポート作成に手当を支給したり、勉強会は職員が持ち回りで担当する等、スキルアップやモチベーションの確保に向けた、積極的な取り組みがある。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的な職員会議の中で利用者の人権について話し合い、ケアの方針、統一に取り組んでいる。	NPO法人久留米市介護福祉サービス事業者協議会のグループホーム部会に加入しており、研修参加や内部伝達を図りながら、人権教育、啓発に取り組んでいる。法人内の勉強会においても、認知症ケアや高齢者虐待防止等の研修を実施している。	

福岡県 グループホーム「仲間館・絆」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研究等について、職員へ積極的に呼びかけ研修を受ける機会を確保している。また、法人内でも毎月の職員学習会もやっている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者協議会などに積極的に参加している。近隣の同業者への行事、見学などに出向いている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なるべく多く本人の声を聞くように聞けるように心配りしている。意思の疎通が困難な方でも不安なこと、求めていること、心も声を聞き、表現等で読み取り信頼関係が築けるように心掛けている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞き共感し「その人にとって何が一番いいのか」を一緒に考え信頼関係を築けるように心掛ける。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	小さなことでも聞き逃さず「その人にとって今何が必要なのか」を第一に考えその方に一番いい方法を本人、ご家族と共に考え対応できるように取り組んでいる。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がわからない事を教えて頂き、助けられたり助けたりの関係を大切にしている。一緒に喜怒哀楽を共有し、支えあう関係を大切にしている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時近状報告を行い、本人主体の介護が出来るよう家族の方と一緒に考えている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が連絡してほしいと言われた所に、連絡したり要望があれば昔住んでいた場所に連れて行ったりしている。	家族の協力も得ながら、馴染みの美容院でパーマをかけたたり、昔住んでいた場所へのドライブ等に出かけている。また、福岡市内まで、お墓参りに出かけた経緯もあり、生活習慣や馴染みの関係性の継続を支援している。	

福岡県 グループホーム「仲間館・絆」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや野外活動を取り入れたり、日常生活において、洗濯物たたみ、食器拭きなどをして頂き、関って頂くよう努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたり、他の施設に入居されてもお見舞いに行ったり、又、ご家族も訪問して下さっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉、表情、顔色、動作等から一人ひとりの思いや、暮らし方の希望、思考の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者に対しては、表情や会話、ご家族の話の中から情報収集を本人の意思に沿うようにしている。	各担当者により、センター方式を活用した情報収集が行われている。また、利用者アンケートが実施されており、意向や馴染みの関係性を把握し、その実現に努めている。	職員により、日々の記録やセンター方式への記載内容に差があるため、勉強会等を通じて意見を出し合い、内容の充実に向けて取り組んでいくことを期待します。また、日々の関わりや介護計画作成に活かせるよう取り組んで欲しい。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や馴染みの暮らし方、サービスの経過等を職員全員で共有、把握し日常の支援に生かしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設に於いて利用者の今迄の生活ペースを守るとともに、残存能力を生かして頂けるよう努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、職員の気づきを大切に担当当事者会議にて主治医の意見も参考にしながら本人本位の介護計画を作成している。	カンファレンスや3ヶ月ごとのモニタリングを通じて、現状の確認や見直しの必要性を検討している。主治医や各担当職員の意見を参考にしながら、本人本位の計画作成に努めている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で、食器拭き、洗濯物たたみなど残存機能を生かして頂く様、支援、表情などの記録を残し、実践プランに生かすようにしている。		

福岡県 グループホーム「仲間館・絆」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の希望にあわせた個別の外食にも柔軟に対応している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	12月に消防の方による防火訓練を予定している。又、市の図書館にて紙芝居などを借りたりして日々の支援に役立てている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の意見を尊重し、入居時にかかりつけ医を決めている。ホームの往診は一人ひとりの状態に合わせて定期的に行い看護師とも連携が取れている。歯科、眼科の往診もある。	入居時に、本人、家族の意向確認を行い、かかりつけ医を決めている。また、随時の電話連絡や利用状況報告書の作成により、家族との情報共有に努めている。歯科の定期往診もあり、口腔ケアへのアドバイスを日常の中で活かしている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々常に利用者の体調の変化を把握している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入居した場合、頻回に病院に出向き馴染みの関係が無くならないように、情報交換を行っている。この際、ご家族とも連絡を密にし早期退院に向け情報交換を行っている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が日々より良く暮らせるためにご家族との話し合い本人本位での支援を話し合っている。状態の変化について家族と密に連絡を取りながら取り組んでいる。	入居時に、重度化や終末期にかかわる指針をもとに、ホームとしての方針を説明している。また、利用者アンケートや同意書の作成により、その都度の意向確認を行っている。これまでに、看取りを支援した経緯もあり、家族や、医療関係者との話し合いを重ねながら方針を共有している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員学習会などで、看護師による指導を行っている。		

福岡県 グループホーム「仲間館・絆」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練、避難訓練、消防の方の協力のもと計画的に実施している。又、消防器の点検、避難経路の確認も年1回実施している。	年2回、消防署の立会いも含め、昼夜を想定した避難訓練を実施しており、入居者も参加している。これまでに、運営推進会議に消防署より出席を得たり、行事等を通じて地域消防団との交流を図った実績もあり、非常用持ち出し品の整備等も行われている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格や誇りを傷つけないように声かけや対応に常に注意を払っている。個人情報についても法令順守に努めている。	接遇については、勉強会の中で重点的に取り上げ、また、接遇チェック表をもとに確認を行う等、人格の尊重やプライバシーの確保についての意識を高めている。排泄ケアや入浴時に対応には特に留意し、さりげない対応を心がけている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難聴の方には筆談や大きな声で声かけを行い、心を開いて頂く様声かけ、食事時も「肉、魚どちらがおいしいですか？」等、自己決定出来る場面を設けている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れはあるが、利用者の生活歴の馴染みの暮らし方を大切に、無理強いすることなく、利用者の意思を取り入れ支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣料店に於いて、利用者の好みを取り入れ選んでいただいている。 理容店に於いて、希望に合わせた店に行き本人希望の髪形にしてもらっている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力を活かして、食後の食器の片づけ等を職員と一緒にやっている。	法人厨房での調理となり、形状等に個別の細やかな配慮が行われている。個別の外食や弁当を持って外出したり、庭先でおやつを楽しむ等の機会ももっている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを行い、利用者の状態に応じ摂取量を記録している。一人ひとりの残存能力を活かすべく自分の力で摂取できるよう支援している。水分を取ってもらえないときは味を変えたりして工夫している。		

福岡県 グループホーム「仲間館・絆」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き誘導、入れ歯磨き誘導介助、うがいなど一人ひとりの能力に応じて自分で出来る方はなるべく自分でして頂く様支援している。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便回数が多い方、失敗が多い方等は時間毎のトイレ誘導を行い一人ひとりの力や排便パターン、習慣を把握し気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表により、個別の状況やパターン、リズムの把握に努め、さりげない対応を心がけている。食材や水分補給に配慮し、適度な運動やマッサージ等、個別に働きかけを行い、便秘予防に努めている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、植物繊維を多く取ってもらっている。 又、運動の為にも毎日、ラジオ体操、リハビリ体操なども行っている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1階、2階で交互に入浴日を決めて準備を行っている。週3回の基本的な予定はあるが、希望や状況によって柔軟に対応している。	それぞれ個別のシャンプーや石鹸を使用し、入浴剤を用いて温泉気分を楽しむこともある。設備上の事情により、1階、2階の入浴日は交互に設定されているが、希望や状況により出来る限り柔軟な対応に努めている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、レクリエーションや運動で体を動かして頂き夜間には安眠できるよう工夫している。又、昼食後も休んで頂き、利用者一人ひとりに合わせて対応している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が指示を行い、薬が少しでも変わると報告があり、全職員が解るように申し送り等書いてある。 薬の表も誰が見ても解るように、きちんと見やすいようにファイリングしてある。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が昔していた仕事、時な事を活かしてホーム内で出来る仕事を生活リハビリとしてその方にあった役割を持っていただき、日常的に支援している。		

福岡県 グループホーム「仲間館・絆」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>年に一度の旅行に行ったり、個別にお墓参りに連れて行ったり、職員、利用者、ご家族と一緒に外出するなど楽しい外出が出来るよう支援している。</p>	<p>散歩や買い物、外食等、個別の支援に努めている。22年度は殆どの入居者の方々が参加する3泊の沖縄旅行も実現しており、地域のボランティアの協力も得ながら、毎年のように旅行を企画していることは、当事業所の大きな特徴である。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一人ひとりの力に応じて、財布を自分で持ち金銭管理されている方もいれば、全くできない方もいるので、レジ前でお金を渡しなるべく自分で払って頂き、お金の大切さ、安心感を持っていただけるように、支援している。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の希望にて、ご家族へ電話したいとの連絡があった際、自分で出来る利用者は、なるべく自分でボタンを押していただく。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングに於いても季節感が解るように、季節の花を飾るようにし、生活感を味わって頂けるように、テーブル、ソファ、テレビに配置している。リビングには、季節、日にちが解るよう、大きな見やすいカレンダーを張っている。</p>	<p>リビングは明るく、1階にはウッドデッキ、2階は広いベランダが設置されている。また、1階の玄関隣のホールにはテーブルやソファが置かれ、懐かしさを感じる調度品やポスターにより雰囲気作りが行われている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングには、ソファやイスを置き、テラスにもソファを置き利用者が横になられたり、語り合えるような居場所の工夫をしている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご家族と相談しながら、今まで使い慣れた家具、物などを持って頂くようにしている。ご家族との写真をお部屋に飾ったりして、安心して居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。</p>	<p>ベッドや布団の使用については、生活習慣や個別の身体状況、疾患等に配慮されている。続き間の設定もあり、筆筒や仏壇等が持ち込まれ、安心して過ごすことができるよう環境作りへの配慮が行われている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりを把握しわかる力を活かして、出来る事はなるべく自分でやって頂けるよう、上手な声かけ、さりげない誘導を行っている。</p>		